寄居町公共下水道ストックマネジメント計画（第２期）

寄居町 上 下 水 道 課

策 定 令和７年１２月

寄居町では平成４年に一部供用開始し、令和６年度末時点で管きょ延長約８２㎞、マンホールポンプ場１３機場のストックを有しており、次に示す基本方針で保全を行う。

①ストックマネジメント実施の基本方針

【状態監視保全】

流下機能・揚水機能への影響が大きい等、重要度が高い施設・設備で、劣化状況の把握・不具合発生時期の予測が可能な施設・設備に適用する。

※状態監視保全とは、施設・設備の劣化状況の確認を行い、その状態に応じて対策を行う管理方法をいう。

【時間計画保全】

流下機能・揚水機能への影響が大きい等、重要度が高い施設・設備であり、劣化状況の把握が困難な施設を対象とする。

※時間計画保全とは、施設・設備の特性に応じて予め定めた周期（目標耐用年数等）により対策を行う管理方法をいう。

【事後保全】

流下機能・揚水機能への影響が小さく，特に重要でない施設を対象とする。

※事後保全とは、施設・設備の異常の兆候（機能低下等）や故障の発生後に対策を行う管理方法をいう。

②施設の管理区分の設定

1)状態監視保全施設

【管路施設】

施設名称	点検・調査頻度	改築の判断基準	備考
管きょ，マンホール，マンホール蓋（管きょ・腐食環境下）	点検は 1 回/5 年の頻度で実施。 調査は 1 回/10 年の頻度で実施または点検で異状を確認した場合に実施。	管きょ：緊急度Ⅰ及びⅡ ﾏﾝﾎｰﾙふた：健全度 1 ﾏﾝﾎｰﾙ本体：健全度Ⅳ及びⅤ	管きょの腐食の恐れの大きい箇所
主要な管きょ，マンホール，マンホール蓋（主要な管きょ・一般環境下）	点検は 1 回/10 年の頻度で実施。 調査は 1 回/20 年の頻度で実施または点検で異状を確認した場合に実施。	管きょ：緊急度Ⅰ及びⅡ ﾏﾝﾎｰﾙふた：健全度 1 ﾏﾝﾎｰﾙ本体：健全度Ⅳ及びⅤ	上記以外の主要な管きょ
管きょ，マンホール，マンホール蓋（一般環境下）	点検は 1 回/20 年の頻度で実施。 調査は点検で異状を確認した場合に実施。	管きょ：緊急度Ⅰ及びⅡ ﾏﾝﾎｰﾙふた：健全度 1 ﾏﾝﾎｰﾙ本体：健全度Ⅳ及びⅤ	上記以外の管きょ

※腐食の恐れの大きい箇所とは、「段差や落差の大きい箇所」、「圧送管吐出先」、「伏越し下流吐部」など。

2)時間計画保全施設

【管路施設】

施設名称	目標耐用年数	備考
管きょ（圧送管）	標準耐用年数	

【マンホールポンプ場】

施設名称	目標耐用年数	備考
マンホールポンプ場（汚水ポンプ、水位計、緊急通報装置、制御盤）	標準耐用年数×１．５	保守点検で異状の確認またはその兆候が発生し、保守では対応困難な場合は改築を実施。

3)主要な施設の管理区分を事後保全とする場合の理由

【管路施設（管きょ）】

対象なし

【汚水・雨水ポンプ施設（ポンプ本体）】

対象なし

③改築実施計画

1)計画期間　令和８年度～令和１２年度

2)個別施設の改築計画　【管路施設】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
処理区・排水区の名称	合流・汚水雨水の別	対象施設	布設年度	供用年数	対象延長（m）	概算費用（万円）	備考
		対象なし					
合計							

【マンホールポンプ場】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
マンホールポンプ場の名称	合流・汚水雨水の別	対象施設	設置年度	供用年数	施設能力	概算費用（百万円）	備考
寄居第１中継ポンプ場	汚水	№１汚水ポンプ	Ｈ１６	２１	2.2㎥/分×19.5m	８	
子持瀬マンホールポンプ場	汚水	№１汚水ポンプ	Ｈ１６	２１	0.272㎥/分×20.8m	５	
子持瀬マンホールポンプ場	汚水	№２汚水ポンプ	Ｈ１６	２１	0.272㎥/分×20.8m	５	
本村マンホールポンプ場	汚水	№２汚水ポンプ	Ｈ２４	１３	0.45㎥/分×4.9m	２	
本村第２マンホールポンプ場	汚水	№２汚水ポンプ	Ｈ１９	１８	0.12㎥/分×5.0m	１	
玉淀マンホールポンプ場	汚水	№１汚水ポンプ	Ｈ２３	１４	0.78㎥/分×4.8m	３	

寄居第１ 中継 ポンプ場	汚水	水位計	Ｈ２４	１３	投込式圧 力水位計	1	
本村第２ マンホール ポンプ場	汚水	水位計	Ｈ１９	１８	投込式圧 力水位計	1	
三ヶ山東 マンホール ポンプ場	汚水	水位計	Ｈ２５	１２	投込式圧 力水位計	1	
三ヶ山中 マンホール ポンプ場	汚水	水位計	Ｈ２５	１２	投込式圧 力水位計	1	
三ヶ山西 マンホール ポンプ場	汚水	水位計	Ｈ２５	１２	投込式圧 力水位計	1	
岩崎 マンホール ポンプ場	汚水	緊急通報装置	Ｈ１１	２６	電話回線 電話 Fax 通報	1	
樋ノ下 マンホール ポンプ場	汚水	緊急通報装置	Ｈ１１	２６	電話回線 電話 Fax 通報	1	
本村 マンホール ポンプ場	汚水	緊急通報装置	Ｈ１３	２４	電話回線 電話 Fax 通報	1	
藤田 マンホール ポンプ場	汚水	緊急通報装置	Ｈ１６	２１	電話回線 電話 Fax 通報	1	
合計						３３	

④ストックマネジメントの導入によるコスト縮減効果

概ねのコスト縮減額	試算の対象時期
管路施設　　約７２百万円／年 ポンプ場施設　　約　２　百万円／年 合計　　約　７４百万円／年	概ね１００年

備考）標準耐用年数で全てを改築した場合と比較して、②に基づき健全度・緊急度等や目標耐用年数を基本として実施した場合のコスト縮減額を記載する。